

## 県指定文化財 本堂

永禄6年(1563)の三河一向一揆の後、一旦は破却されたと伝えられている本證寺は、寛文3年(1663)頃に現在の本堂が再建されました。地方の真宗寺院本堂としては比較的大型で、また古い本堂建築の様式を留めています。欄干の擬宝珠には、寄進者の銘が刻まれています。



(本堂)



正面に阿弥陀如来立像、右に慶円上人坐像、左に聖徳太子立像があります。



(本堂欄干擬宝珠銘文のひとつ)

寛文三卯癸正月十一日  
寺内之者共  
三州碧海郡  
野寺本證寺  
寄進致之干時

## 市指定文化財 阿弥陀如来立像

本證寺の本尊で、鎌倉時代後期の作と推定されます。腹部から膝は厚みがある一方、胸部から上が華奢であることが特徴です。



(阿弥陀如来立像)

## 市指定文化財 聖徳太子立像

聖徳太子16歳の姿を表しているときれ、鎌倉時代末期の作と考えられます。

真宗では、聖徳太子を観音の生まれ変わりとするとともに、日本に仏教を広めた恩人として信仰しています。



(聖徳太子立像)

## 県指定文化財 慶円上人坐像

本證寺を開いた慶円の本像です。貞和3年(1347)に作られたことがわかっています。合掌する姿は、真宗では古い肖像彫刻にみられる特徴です。



(慶円上人坐像)

## 国指定重要文化財 聖徳太子絵伝 善光寺如来絵伝

### 1. 聖徳太子絵伝

日本に仏教を広めた恩人である聖徳太子の生涯を全10幅、121場面で描いています。聖徳太子七百回忌であった鎌倉時代の元亨元年(1321)頃の作と考えられています。鎌倉・室町時代の現存する聖徳太子絵伝としては最大の規模です。



(聖徳太子絵伝第6幅)

### 2. 善光寺如来絵伝

善光寺(長野県)の阿弥陀三尊像が天竺(インド)でつくられ、百済(朝鮮)を経て、善光寺に安置されるまでを全4幅、36場面を描いています。



(善光寺如来絵伝第4幅)

## 本證寺の内堀・外堀

本證寺は、本堂を囲む内堀と、庫裏を囲む内堀があり、その外側には外堀がありました。

三河一向一揆前の16世紀前半(戦国時代)に、急傾斜でV字形の外堀が掘られましたが、短期間で埋まっています。

18世紀後葉から19世紀前葉(江戸時代後期)には、戦国時代とほぼ同じ位置に、緩やかな傾斜で幅広の浅い外堀が掘られました。



(現存する内堀)

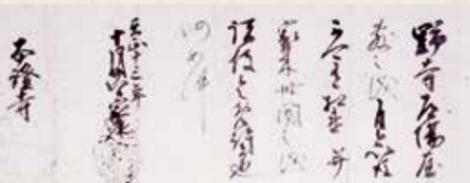


(令和3年度発掘調査内堀)

## 家康三大危機 三河一向一揆

永禄6年(1563)、寺の不入権(租税免除と治外法権)侵害が発端となり、松平(徳川)家康と対立して三河一向一揆が勃発します。永禄7年(1564)、一旦は和議が結ばれましたが、家康から一方的に出された改宗命令を拒否したため、坊主衆は領国追放、建物は破却されたと伝えられています。本證寺10代空誓も、加茂郡菅田和(豊田市)に逃れました。

それから約20年後に石川妙春尼(家康の叔母)の尽力によって、一揆の罪が赦免されます。家康黒印免許状

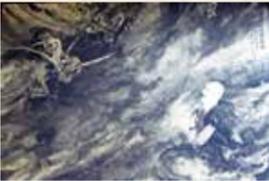


(市指定文化財 家康黒印免許状)

## 伝説

### 1. 龍宮淵

幡豆郡小島村(西尾市)を訪れた慶円は、村民を苦しめる大蛇がいる龍宮淵に向かいました。道中で老人に「坊主の身に帯刀するのはなぜか」と問われると、慶円は「村民に危害を加える大蛇を退治するのは僧の務め」と答えます。すると、老人は大蛇に姿を変えて消えていったとされます。



(水野桜山画)

### 2. 雨漏り御殿とイブキの木

浄土真宗を開いた親鸞が、矢作の柳堂(岡崎市)で説法をした時、慶円は親鸞を野寺に案内したとされます。親鸞の部屋は雨漏りをしましたが、親鸞の周囲には水滴が落ちてきませんでした。その後、親鸞はイブキの枝を庭に挿したところ、みるみるうちに大木(本證寺のイブキ)へと成長しました。



(県指定天然記念物 本證寺のイブキ)

### 3. 龍椀(貸椀伝説)

法要で膳椀が必要な際、龍宮池に数量を記した紙片を浮かべると、翌朝には龍が用意してくれたといわれます。しかし、ある時一組の椀(「龍椀」・県指定 垣葛文組椀)を返し忘れた後、二度と膳椀が浮かび上がることはありませんでした。



(県指定文化財 垣葛文組椀)

## 安城合戦

### 1. 第一次安城合戦

天文9年(1540)、織田信秀が安城城を攻撃し、松平氏は安城城を織田氏に奪われました。

その後、この戦いの戦死者を弔う十三塚が築かれ、東条塚、富士塚、千人塚などが伝えられています。



(市指定史跡 東条塚)



(市指定史跡 富士塚)

### 2. 第二次安城合戦

天文14年(1545)、松平広忠(家康の父)は安城城奪還のために反撃を行います。戦況は劣勢を強いられました。その時、家臣である本多忠勝(本多忠勝の祖父)は、自らの命と引き換えに広忠を岡崎へ帰還させたと伝わります。

また天文16年(1547)、当時5歳の竹千代には、今川氏の人質として今川義元のもとへ向かう途中、織田氏に奪われて、織田氏の人質になってしまいました。

### 3. 第三次安城合戦

天文18年(1549)、今川氏と松平氏が安城城を攻撃した結果、松平氏は安城城を奪還するとともに、安城城代であった信広の生け捕りに成功します。そして竹千代と信広が人質交換されたことで、竹千代は織田氏の人質から解放されました。

こうして約10年間にわたる安城城争奪戦は幕を閉じました。

## 市指定史跡 本多忠豊墓碑

第二次安城合戦で、本多忠豊は劣勢となった広忠を救うため、広忠の扇の馬印を掲げて敵陣に突撃して討死したと伝えられています。寛政6年(1794)、戦死したとされる場所に、徳川に功績のあった者にだけ許される大亀の墓碑が建てられました。



## 市指定史跡 本多忠高墓碑

第三次安城合戦で、安城城代の信広を追い詰めた本多忠高(本多忠勝の父)は、本丸近くまで追い詰めますが、敵の矢に当たって討死したといわれています。寛政9年(1797)、戦死したとされる場所に徳川に功績のあった者にだけ許される大亀の墓碑が建てられました。



## 市指定史跡 山崎城址

広忠に仕えていた松平信孝(広忠の叔父)は、勝手に所領を広げたことが原因で、広忠と対立するようになります。この山崎城(大岡城)は、天文12年(1543)に織田方に従い、築いたとされます。

現在、山崎神明社の北側に堀が良好に残っています。



## 七つ井

安城城周辺には、七つ井と呼ばれる良い水が出る井戸がありました。そのなかでも筒井は特に良い水であったとされ、織田氏の人質から解放された竹千代が岡崎に帰る途中、筒井の水を飲むと、「この水を持ち帰りたい」と言っており、竹の筒に入れて持ち帰ったと伝わっています。

また筒井は、安城城歴代城主も茶の湯に使っていたといわれています。

## 大岡白山神社

### 1. 三河三白山・大岡白山神社

天文2年(1533)に松平清康によって建立されました。清康に従った家臣団とその家族は、出陣の際に大岡・上条・桜井の各社で武運長久を祈願したとされています。これら三社は家康によって社領を寄進され、「三河三白山」と呼ばれるようになりました。



(市指定史跡 三河三白山・大岡白山神社)

### 2. 大岡白山神社 本殿

また本殿は兵火によって一度は焼失しますが、永禄10年(1567)に家康によって再建されました。現在では安城最古の建造物となっています。



(市指定史跡 大岡白山神社 本殿)

## 本證寺の歴史

安城歴史伝



本證寺は浄土真宗の名刹で、鎌倉時代後期(13世紀後半)に、慶円によって開かれたと伝わっています。室町時代後期(15世紀後半)には、本願寺蓮如の教化によって本願寺派に転じます。この頃から三河地方の本願寺派寺院の組織化が進み、後に上宮寺・勝鬘寺(いずれも岡崎市)とともに三河三か寺と呼ばれる地域の中核寺院になりました。そして、戦国時代(16世紀前半)になると、二重の堀が築かれました。

永禄6年(1563)に勃発した三河一向一揆では、徳川家康と争った結果、領国追放されてしまいます。一揆の罪が赦免されたのは、それから約20年後でした。江戸時代になると、中本山・触頭の役割を担い、200か寺余の末寺を有するようになりました。平成27年(2015)3月10日に、「本證寺境内」として国の史跡に指定されました。

## 本證寺と寺内 (江戸時代後期)



## 本図の位置



安祥文化のさと  
安城市歴史博物館  
安城市埋蔵文化財センター

歴史の散歩道  
「どうする家康」特別編

※寺は神聖な場所です。見学の際には、マナーを守るようにお願いします。  
※掲載されている文化財の中には、個人所有のものがあり、生活の場でもあります。見学の際には所有者に承諾を得たり、ごみは持ち帰るなどマナーを守るようにお願いします。

「安城歴史の散歩道～三河一向一揆の舞台 本證寺を歩く～」  
「安城歴史の散歩道～安祥城址と古戦場めぐり～」も併せてご覧ください  
QRコードから安城市内の高校が制作した歴史解説動画「安城歴史伝」をご覧ください。

## 安祥文化のさと 安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター



〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地  
歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600  
埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600  
URL <http://www.city.anjo.aichi.jp>

### 利用のご案内

- 開館時間 AM9:00～PM5:00 (入館時間PM4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 年末・年始(12月28日～1月4日)
- 歴史博物館観覧料  
【常設展】一般：200円  
【企画展】無料  
【特別展】一般：有料(常設展含む)  
\*中学生以下は無料。  
\*団体(20人以上)・障害者は割引します。

2023.3 10,000 (S) 環境に優しい植物油インキを使用しています。

## 安城

# 歴史の散歩道

## 「どうする家康」特別版



## 安城市教育委員会

## 安城城の歴史

安城歴史伝



永享年間(1429～1440)に和田氏によって築かれたと伝わります。もとは安城城と呼ばれ、江戸時代から安祥城と表記されるようになりました。文明3年(1471)、岩津城の松平信光が謀略を用いて無血入城したといわれ、大永4年(1524)に松平清康(家康の祖父)が岡崎城に移るまで、安城松平4代(親忠・長忠・信忠・清康)の居城となりました。天文9年(1540)、松平氏・今川氏と織田氏による安城城をめぐる争いが勃発します。織田信秀(信長

の父)が安城城を奪うと織田信広(信長の兄)を城代としましたが、天文18年(1549)の松平・今川軍の攻撃によって落城すると、信広は捕らえられ、織田氏の人質であった竹千代(徳川家康)との人質交換が行われました。永禄3年(1560)、桶狭間の戦いで今川が西三河から撤退すると、信長と家康との間で清州同盟が結ばれ、安城城は廃城となりました。

## 安城城(安祥城)の周辺

